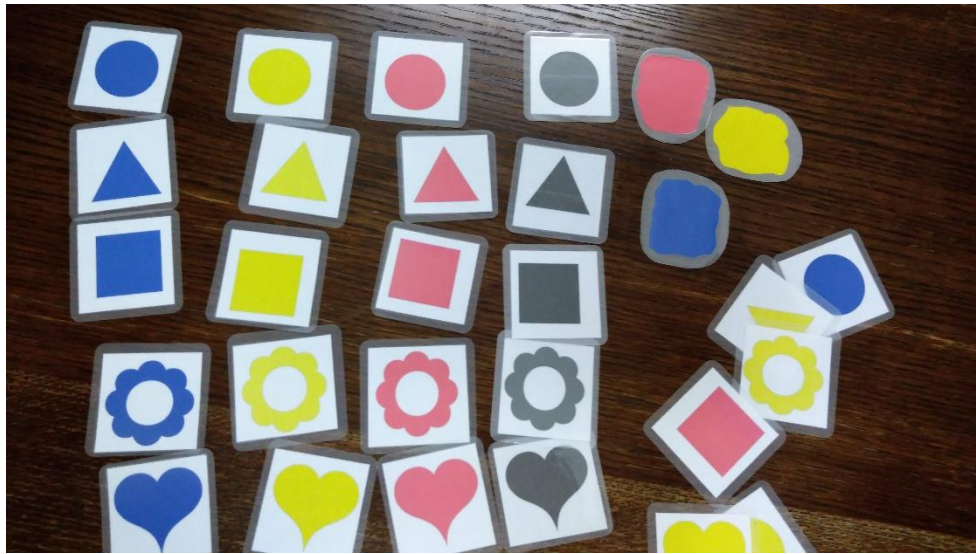


教材紹介：色形カード

目的：色名、形名の理解と表出。相手に指示を出す。ルール理解。役割交代を学ぶ。

ターゲット：色名や形の名前を理解し始めたお子さんから、短文を話せるようになったお子さんまで幅広く。



使用教材

赤、青、黄色などの色をつけた、丸、三角、四角などのカード。

同じものを2組作っておく。

(写真のカードは、Microsoft 社 Word と互換性のある Apache OpenOffice の Writer を使って基本シェイプ、記号シェイプにある形を選んで描いています。)

内容

お子さんに合わせて色や形を限定し、難易度を調整する。

【方法1：音声言語理解訓練】

1) 一組のカードを机に並べる、もう一組のカードは大人が手に持つ。

2) 大人が「赤の丸」など手元にあるカードの特徴を言い、子どもは机上からそれに合うカードを選ぶ。

3) 慣れてきたら、「赤の三角と黄色の四角」など、2つのカードの特徴を言いそれを子どもが選ぶ。

【方法2：言語表出訓練】

方法1で、大人と子どもの役割を交替する。

【方法3：視覚的指示理解訓練】

音声言語未獲得のお子さんに対しては、灰色の形カードと色だけのカード(写真の右上にあるもの)も準備し、

(灰色の形カード)と(色カード)を見せながら、それに合うカードを選んでもらう。

例えば、(灰色の丸のカード)と(赤カード)を大人が呈示した場合は、子どもに(赤い丸のカード)を選んでもらう。

【方法4：視覚的記憶訓練】

カードを裏返してテーブルに並べ、神経衰弱をする。カードを裏返したときに色名と形名を確認すると尚よい。

方法(補足)

3歳ぐらいのお子さんから実施していますが、最初は音声で「青」と「赤」の区別が難しかったり、「三角」と「四角」の区別が難しかったりすることが多いです。少ない枚数から開始しています。

ASD 傾向があるお子さんと最初に【方法2】を実施した際、指示を言うことに戸惑うことがありました。形の名前について、上記の写真では、「丸、三角、四角、花、ハート、星」にしています。

